

ハザードなより

安泉寺ハザード会 〒496-0945 愛西市三和町中割173-1 TEL 0567-28-0001

2026年4月号

(文責：野呂美道)

読売新聞に掲載

昨年の12月に読売新聞の記者さんがハザード会について取材してくれました。

3月、東日本大震災から15年の節目に合わせて、詳細な記事にしてくれました。

丹念に取材してくれたので、この記事には私たちハザード会が行ってきたすべてが語られています。載った以上はしっかり頑張るしかありません。

被災地と交流学び生かす

東日本大震災から11日で15年。愛西市の安泉寺が被災した福島県や仙台市の人たちと交流を続けている。寺では、2年前の能登半島地震でも現地ボランティア活動を実施。中高生など約10人の「ハザード会」を結成し、近く起きる可能性がある南海トラフ地震に備え、愛西市に提言なども行っている。

愛西・安泉寺



石巻市の大川小学校で説明を受ける学生や安泉寺関係者

中高生ら南海トラフ備え

東日本大震災15年

安泉寺は、16世紀に創建。1891年に愛知県や岐阜県に被害をもたらした濃尾地震から再建した歴史もある。



被災地の経験を話す富田さん(右)と土方さん(右から2人目)(愛西市で)

寺前住職の野呂美道さん(77)らが震災から約3か月後に仙台に入った。津波で全壊し、住職も犠牲となった仙台市若林区の海楽寺を拠点に、仏教青年会お風呂プロジェクトの一環で入浴サービスを実施したり、全国から寄せられた物資をトラックで持ち込むなどして炊き出しを行ったりした。仙台での活動を終えた後も物資を送ったり、東京電力福島第一原子力発電所事故で被災した福島県二本松市の幼稚園で除染活動を行ったりした。

「若者にも被災地に行つて現実を見てもらおう」と2016年、19年には、児童と教職員ら80人以上が犠牲になった宮城県石巻市立大川小学校などに愛西市の中高生らを派遣。延べ約40人が語り部の話に耳を傾けた。

「被災地で学んだことを地元で生かすにはどうしたらよいか。行っただけでは意味がない」と、参加したメンバーらは、愛西市で地元のお年寄りなどから聞き取りを行い、ハザードマップも作った。

中学生のときに宮城県女川町などを訪れた大学1年の土方匡紀さん(19)や大学2年の富田侑奈さん(19)らは、その経験を基に昨年2月、市議会に「地域の防災力を高めるための請願書」を提出。海抜ゼロメートル地帯の愛西市は、木曾川に近い地区では標高が高い場所に避難場所がなく、必要性を感じている。

富田さんは「低地が多い自分たちの古里も津波などの被災を受けてしまうと恐怖を持った」と語る。土方さんは「被災地に行つてあせんとした。経験を何かの形にしたい。行政とも今後話し合いを続けたい」と話す。

安泉寺は、能登半島地震でも石川県珠洲市などでボランティア支援を行っており、これからは被災地と交流を続けていく考えだ。

野呂さんらは今年も11日に犠牲者を悼み、東日本大震災の発生時刻に合わせて鐘をつく予定だ。

裏面にアンケート結果を掲載します。

地震アンケートの結果

- ① 津波は皆さん想定している
- ② 避難まで時間がかかる見込み
- ③ 津波到達まで30分と見込んでいる人が多い
- ④ 高い建物に避難するとあるが、三和町のどこに高い建物があるのか？
- ⑤ 行政の指定避難所に行く人と行かない人が分かれた
- ⑥ 避難する前に、スマホ、ブレーカ、防災グッズ、情報を調べる、の順にするべきことが分かった
- ⑦ 10分から30分までに避難所に行けると答えた人が多かった。移動手段は車と徒歩が圧倒的
- ⑧ 時間は10分以内が多かった
- ⑨ 避難しない理由としては、避難所が嫌、必要なし、家族の都合、被害に遭っても構わない、の順
- ⑩ 南海トラフ地震の情報は熟知
- ⑪ 取り組みとしては、懐中電灯、備蓄品、保険加入、SNS登録、寝室に筆筒を置かない、などの順
- ⑫ 避難する人の割合は、30～90%
- ⑬ 家具固定は一部か、固定していない家庭が多かった
- ⑭ 理由は面倒だから、家を傷つけるから、仕方ない、などが多かった
- ⑮ 感震ブレーカは10%の家庭しか設置していない
- ⑯ 理由は、知らない、方法が分からない、お金がかかる、発注が面倒などの順
- ⑰ 一番困ることは「水」の確保。次に避難できるかどうか、停電したらどうする、という順。水は農業用の井戸などで確保できないか？ でも、水没したら使えない。
- ⑱ 避難することは各家庭でしっかり決めている。どこに避難するかは不明。
- ⑲ 避難経路も半数以上は決めている。
- ⑳ 一番困ることは「水」の確保。次に避難できるかどうか、停電したらどうする、という順。水は農業用の井戸などで確保できないか？ でも、水没したら使えない。

※まだまだ皆さん地震に対する備えが不足していることが分かりました。改善できることは、地域を揚げて取り組む必要があることを痛感。皆さんの意識の向上を図りたいと思います！

次回は地震編ワークショップ

この次の話し合いは **4月5日（日）10:00～12:00** と決まりま

した。また、前回と同じように会議では地震についてのワークショップを開きます。
興味のある方はどなたでも参加できます。是非お越しください。